**今日は十字架の死を控えておられたイエス様が、**ご自分の弟子たちと共に、最後の晩さんを行われたことを記念する「聖木曜日」です。その晩さんを通して、イエス様はミサ聖祭を制定し、また、その神秘を弟子たちに委ねられました。そこで、弟子たちはイエス様の司祭職に与る人となったわけです。それを記念するため、今日、全世界の司祭たちは、自分の教区長と共に「聖香油のミサ」をささげながら、司祭叙階の時の約束を更新し、夜には自分の小教区の信者たちと共に、イエス様の最後の晩さんを記念する「主の晩さんのミサ」を行います。今わたしたちは、イエス様の最後の晩さん、つまり、「イエス様の最初のミサ聖祭」に招かれているのです。

**ところが、その最初のミサ聖祭の中で、**イエス様は弟子たちの足を洗ってくださいました。それは、彼らも先生であり主であるイエス様に倣って、互いに仕え合う人となるべきことを教えるためだったのです。そして、ご自身が弟子たちを愛しておられたように、「互いに愛し合いなさい。」という大切な掟を授けられました。この二つのこと、つまり、「互いに仕え合い、愛し合う」ことこそが、すべての司祭と洗礼によって主の司祭職に与っている信者の皆さんの真の生き方なのです。

**さて、ミサの式次第によると、**イエス様は、パンとぶどう酒を取って感謝をささげ、それを弟子に与えられました。一体、罪のない方が、罪人のために自分の命をささげる前、感謝をささげられたのはどういうことでしょうか。それは、御父である神様のみ旨に従って、神様の小羊としての使命を全うすることができたことについての感謝だったでしょう。そのイエス様の愛の深さとは。

**最後の晩さんの終わりごろ、**イエス様は弟子たちのために祈られました。その祈りの中で、イエス様は御父に感謝し、御父が弟子たちを守ってくださること、また、御父とご自身との愛の一致に彼らも与れることを願われたのです。それと同じく、ミサの中で司祭は次の祈りを唱えます。「聖なる父よ、わたしたちはいま、主イエスの死と復活の記念を行い、み前であなたに奉仕できることを感謝し、いのちのパンと救いの杯をささげます。キリストの御からだと御血にともにあずかるわたしたちが、聖霊によって一つに結ばれますように。世界に広がるあなたの教会を思い起こし、教皇(　)とわたしたちの司教(　)、すべての奉仕者と共に、あなたの民をまことの愛で満たしてください。」と。この祈りは、わたしたちがどんな状況に遭っても、「互いに仕え合い、愛し合う」ことによって、この感謝の祭儀であるミサ聖祭を完成し、イエス様と御父の一致に与ることができるのを表す祈りです。ご自分の命をささげて救いの御業を全うされたイエス様、御父との一致にわたしたちを招いてくださったイエス様のこのミサ聖祭を、わたしたちが大事にするのは当たり前なのです。これからも、互いに仕え合い、愛し合いながら、イエス様の道を共に歩んでまいりましょう。